

第9回 静岡県道路技術審議会 会議録

日時	平成30年2月19日(月) 15:00~17:15
場所	静岡県庁 別館7階 第2会議室A
出席者 職・氏名	<p>会長 兵藤 哲朗(東京海洋大学海洋工学部流通情報工学科 教授)</p> <p>委員(五十音順) 青山 佳世(フリーアナウンサー) 井料 美帆(名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻 准教授) 海野 俊也((株)静岡新聞社 東部総局長) 小野 寺郷子(しずおかNPO市民会議 代表) 岸 昭雄(静岡県立大学経営情報学部経営情報学科 准教授) 窪田 智樹(一般社団法人静岡県トラック協会 専務理事) 木寄 暁子(静岡大学大学院理学部准教授) 末吉 喜恵(NPO法人よしよし理事長) 杉本 一(静岡県警察本部交通部交通規制課長) 隅蔵 雄一郎(国土交通省中部地方整備局 静岡国道事務所長) &lt;代理:宮林副所長&gt; 高木 敦子((有)アムズ環境デザイン研究所 代表取締役) 平野 洋一(一般社団法人静岡県バス協会 専務理事) 深澤 陽一(静岡県議会議員 建設委員会委員長) 二村 真理子(東京女子大学現代教養学部国際社会学科 教授) 四方田 雅史(静岡文化芸術大学文化政策学部文化政策学科 准教授)</p> <p>事務局 和田道路局長、山本道路企画課長、青木道路整備課長 松井道路保全課長 他</p>
議題	<p>○事務局報告 (委員の交代について)</p> <p>○議事 新たなふじのくにの“みちづくり”の策定について ・現計画「ふじのくにの“みちづくり”」の評価 ・新たなふじのくにの“みちづくり”素案</p> <p>○報告(県の取組等の紹介) (1) 事業着手準備制度 (2) 先端技術を活用したトンネルの維持管理</p>
配付資料	<p>次第、委員名簿、座席表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1 委員の改選について</li> <li>・資料2-1 ふじのくにの“みちづくり” 概要版</li> <li>・資料2-2 ふじのくにの“みちづくり” 最終評価</li> <li>・資料2-3 美しいふじのくにの“みちづくり”</li> <li>・資料3 事業着手準備制度</li> <li>・資料4 先端技術を活用したトンネルの維持管理</li> <li>・参考資料1 審議会の概要</li> </ul>

(開会)

○ 事務局報告

(1) 委員の交代について [事務局から、資料1により説明]

- ・ 委員の交代について報告 (新たに4名が委員に就任)

○ 議事

(1) 現計画「ふじのくにの“みちづくり”」の評価

[事務局から、資料2-1、資料2-2、資料2-2別紙により説明]

(兵藤会長)

- ・ 資料2-2 P10の表記を浜松いなさ JCT～豊田東 JCT に訂正をお願いしたい。
- ・ 資料2-2別紙の⑩主要な渋滞箇所の渋滞削減率の指標については、5年前にも同じようなプローブデータがあるのか。また、比較は可能か。

(事務局)

- ・ 比較は可能である。ただし、5年前は国土交通省が一括して算出したデータを用いているが、今回はデータを提供してもらうことが難しくなったため、県独自でデータを購入して算出する予定である。概ね一致したデータではある。

(兵藤会長)

- ・ 質問や意見があればお願いしたい。(質疑なし)
- ・ 最終評価として目標を概ね達成したという結果について承認された。

(2) 新たなふじのくにの“みちづくり”素案

[事務局から、資料2-3により説明]

(兵藤会長)

- ・ 今の説明について質問や意見があればお願いしたい。

(井料委員)

- ・ 3点質問したい。維持管理費の縮減と改築費が対照の関係にあるように示されているが、新設においてLCCを見込んだものを優先して整備するなどの対応もありうるのではないか。
- ・ P15に自転車走行環境整備率の算出方法が、矢羽根型路面表示の整備率だけとなっているが、自転車道なども含めた方がよいのではないか。
- ・ 外国人旅行客の増加に関してはどのような対策を考えているのか。

(事務局)

- ・ LCCを考えて整備することは重要であるが、その整備においてもイニシャルコストの課題もある。重要な視点ではあることは共通の認識であるため、当計画にどの様に反映するか検討したい。
- ・ 自転車走行環境については、現状で矢羽根だけではないため、自転車道も含めた指標について検討したいと思う。

- 外国人旅行客の増加への対応としては、外国語表記をするなど、わかりやすい案内標識等での対応を考えている。

#### (海野委員)

- サイクリング、ロードバイクが急激に増えており、インバウンド需要の増加も予想される。自転車走行環境整備率の目標値が 100% (276km) となっているが、これには御殿場・小山の事業に関することも含まれた目標値か。
- 自転車利用者にとって矢羽根などの路面表示もよいが、路面の凸凹の解消や雑草の除去などでかなり走りやすくなる。自転車走行環境の整備率が矢羽根だけで判断するのは納得できないため、この点もお願いしたい。
- 先ほどの最終評価において、地元の反対で実施できなかった事業 1 箇所はどこか。

#### (事務局)

- 御殿場・小山の事業は富士スピードウェイのものであるが、当該事業は本計画の策定スケジュールに間に合わないため、含まれていない。
- 1 箇所事業ができなかった箇所は、(主) 富士白糸滝公園線 (富士市大淵) である。資料 2-2 の p 8 に記載している。

#### (二村委員)

- 自転車については、自転車の交通ルールの教育や保険の対応 (例: 道の駅で簡単に保険に入れる) などのソフトの対応を考えてほしい。
- p 9 では無電柱化という用語を用いているが、p 5 では用いていないのはなぜか。

#### (事務局)

- p 5 では景観に配慮して電線を切り回すようなスポット的な無電柱化であるため、無電柱化という用語を用いていない。

#### (杉本委員)

- 東名や国道 1 号が集中する薩埵峠のところが、台風時によく通行止めとなる。そのたびに迂回に苦慮している。今すぐ対応することが難しいことは承知しているが、静岡県としての最重要課題であると認識している。検討してほしい。

#### (事務局)

- 県としても重要課題と認識しているが、いまずぐの対応は難しい。

#### (四方田委員)

- 指標に渋滞対策実施率があるが、どの様な対策をした時に対策を実施したと考えるのか、イメージを教えてほしい。
- 前回計画には事故抑止率の指標があった。これを今回計画にも入れることを検討してほしい。

**(事務局)**

- 渋滞対策としては、バイパス整備や道路拡幅、交差点改良などがある。
- 事故抑止率の指標はデータに年次差があり、施策に反映しづらい面があるため、今回は外した。お金をかけないと算出できないような指標は今回外しているが、事故抑止率については、アウトカム指標になる指標ではあるため、検討したい。

**(宮林委員（代理）)**

- p10に「真に必要な道路整備を進め」とあるが、どのような指標に基づいて真に必要な道路かを設定したのか。

**(事務局)**

- 真に必要な道路は、p20～21に示す事業だけでなく、図面に記載がない箇所も早期の完了を目指して進めている事業もある。「真に必要な道路」は県の思いを表現しているところもあり、定量的な指標から設定したものではないため、表現が適切か再考する。

**(高木委員)**

- 道路は大きな効果があるのに予算が削られている現状があり、道路整備の効果もアピールしていくことが必要である。指標は道路に関する比率だけでなく、道路によって県民の生活がどの様になるかといった点も加えて欲しい。
- 道路ネットワークは、国や県、政令市、市町等が連携することが重要であるため、指標においても県だけの整備率ではなくても良いと思う。ネットワークによって得られるような指標が現在の指標にプラスされても良いと思う。

**(末吉委員)**

- 子どもたちの安全・安心に関して、例えば、アスファルトの照り返しなどで、気温が30度であってもアスファルトに近いベビーカーに乗っている赤ちゃんの高さでは40度になるなど、夏の暑さについても留意してほしい。

**(木寄委員)**

- 長寿命化について、技術の進展により対応がどのくらいできるのか。
- 土木費が減少する中、土木技術系の人材確保ができるのか。

**(事務局)**

- 道路橋は50年と言われていたが、現在は適切に維持管理すれば100年は持つと言われていた。山間部の橋梁では、錆を幕として長寿命化を図っている例もある。
- 土木技術者も高齢化し、人材確保が難しい状況である。ホームページで土木に関する動画を公表するなどの取組を行っている。

(小野寺委員)

- ・ 前回計画から「美しい」ふじのくにのみちづくりと変更になっているが、それがどのように計画に反映しているのかがわかりづらい。資料編には総合計画との関連も記載されているため、思いは伝わってくるが、ビジョンは県民に向けて示すものであるため、前回とどの様に違うのかが気になった。
- ・ p10の「バランスを見直しながら」は、「バランスをとりながら」でよいのではないか。
- ・ 道路はネットワークでつながっているので、市町との連携をもう少し表現した方がよいのではないか。

(青山委員)

- ・ 「美しい」ふじのくにのみちづくりの「美しい」をもっと意識してほしい。今までとあまり変わらない印象を受ける。すべての事業にこの「美しい」がかかる方がよいと思う。
- ・ 住民の皆さまに何が大切かとお聞きすれば、安全・安心が前面にくるのは当たり前であるが、無電柱化、道路環境、景観に対する意識が低いのが少し残念である。ぜひ、様々な事業を進めていく上で美しいみちづくりを意識していただけると嬉しい。

○ 報告（県の取組等の紹介）

(1) 事業着手準備制度

[事務局から、資料3により説明]

(兵藤会長)

- ・ 質問や意見があればお願いしたい。(質疑なし)

(2) 先端技術を活用したトンネルの維持管理

[事務局から、資料4により説明]

(高木委員)

- ・ この技術は静岡県が独自で開発したものか。

(事務局)

- ・ 開発は理化学研究所であり、静岡県はフィールドや情報を提供している。

(二村委員)

- ・ 文科省でも技術開発を行っているため、今後情報提供があるかもしれない。

(兵藤会長)

- ・ その他、特になければ、以上で第9回静岡県道路技術審議会の議事を終了する。

(閉会)